

令和2年度 第2回 摂津市立男女共同参画センター運営委員会 要点録

日 時：令和3年2月22日（月）15時～

場 所：摂津市立男女共同参画センター 交流室

出席者：森屋委員長、星野副委員長、柏原委員、桂委員、望田委員、鈴木委員

事務局：由井課長、末永課長代理兼男女共同参画センター長、廣瀬活動専門員、岩谷相談員、藤本（敬称略）

開会

案件（1）委嘱式

案件（2）委員長及び副委員長の選出

- ・委員長・副委員長継続

案件（3）令和2年度事業実施中間報告

- ・事業報告書に沿って、各事業の報告・説明

（事務局） 今年度から事業の様子をわかりやすくするため、事業報告書に写真を掲載するようにした。次回運営委員会時には新しい形でお示しできる。

情報室の利用について、アンケートをとった結果、センターの認知度が低いことが明確になった。今後、6月の男女共同参画週間など、〇〇月間にあわせて広報による啓発や公共施設巡回バスセッピ号にセミナーガイドを掲示するなどしてセンターの所在をPRしていきたい。

また、講座開催時にテーマに関連のある書籍を紹介することにより図書の貸出増を図っている。前回の運営委員会の際に、オンラインでの講座のお話があったが、オンラインでの講座はセキュリティの関係上対応が厳しいため実施困難。施設管理に設備の充実を要望していきたい。

また、セミナーガイドに掲載のQRコードにより、各講座ホームページからの申込みが1割増えつつきている。女性人材育成事業のウィズせつつカレッジ修了生から2名女性人材登録をいただいた。

男女共同参画センター講座開催事業について、今年度初めて小学生の高学年の女の子と親を対象に理系女子講座（リケジョ）を実施した。10組の定員のうち8組の親子が実験に取り組んだ。大学生が講師となって進めていくことで、女の子が理系分野に興味を持ってもらうきっかけとなり来年度も継続して実施したい。

男性の積極的な参加を進める講座として、ほめ方講座には男性講師だったからか男性の参加が3名あった。講師が男性ということで参加しやすかったと考える。また、みんなのための家事シェア講座には、お子さんを一時保育に預けられ、2組の子育て世代のご夫婦の参加があった。さらにパパを楽しむ前向き子育ての講座では、6組のうち4組が新規参加者だった。一方、男性問題に特化した男性セミナーについては、男性優先としたものの男性の参加は8名のうち2名だけだった。2月末の講座では、SDGsのフードロス問題を取り上げる予定で、関係課が市民団体と共に取り組むフードバンクの紹介などを合わせてさせていただく予定。

女性に対する暴力防止のうち、毎年実施しているDV防止啓発ストップDVタペストリーは、今年度については、団体がチャレンジ企画として実施した。連続講座の1コマでセンターの女性相談員が講師になりミニ講座を実施するなど、参加者がDVについて学びを深める機会となった。

本市では、DV と児童虐待について、広く市民に啓発するためパープルオレンジリボンバッジを作成し、年度中の完成予定で販売の準備を進めているが、そのデザインをこの団体が担っており、団体活動を後押ししつつ、共に啓発活動をしていきたいと考えている。

女性相談に関して、総合相談は前年同時期比 12% 増。面接相談は前年とほぼ同じ件数だが、夜間の予約がとりにくくなっている状況。法律相談は前年同時期比 80% 程度になっている。

デート DV 予防啓発出前講座について、中学校は 4 校、うち 1 校は 2 つの学年で実施。養護教諭の会議で PR したことで効果あり。一方、高校は、コロナの影響もあり実施できなかったが、来年度実施できるように啓発していきたい。

また、講座資料のデート DV 冊子の挿絵をジェンダーレスに表記を修正した。

ウィズせつつフェスタについて、秋頃に団体に意見を募り縮小した形でできないか検討。日程を分散し、原則申込制で定員を設けて実施することにした。その一つの企画で男の料理教室には定員 5 人のうち 40 代・50 代の方の申込が 3 名あり、比較的若い方の参加が期待できる。

【質疑応答】

(委員) 中学校の出前講座、今年が多いように感じるが何か特別にアプローチされたのか。

(事務局) 先生達が対応しづらいことがあって、こちらに依頼があるのかと思う。

(委員) 実践の場で求められてきているということですね。

(委員) フェスタについて、当日参加可の企画があるが、感染予防対策について、特に QR コードで追跡システムを登録するなど高齢の方は難しいと思うがどのように対応されるのか。

(事務局) 事前申込で氏名、連絡先を聞き名簿を作成。コンベンションホールは座席指定とし、誰がどこに座ったかを把握する。受付で整列指示、体温チェック、手指消毒の徹底、飲食は水分のみ可ということで対応させていただく。当日参加の催しを実施する団体にも入室人数制限の実施、一定の間隔を保つなど守っていただくようにし、大阪府の QR コードはダウンロードを働きかけるなど対策を徹底する。

(委員) 話が戻るが、学校へのデート DV 予防啓発出前講座について、コロナで時間が余ったから今年ではなかったのではなくて、毎年の事業に組込んでいただいて、これからも働きかけをお願いしたい。

(事務局) デート DV 予防啓発出前講座については、継続して実施したいと考えている。

また、大阪人間科学大学との連携事業について、今年度コロナで中断したユースリーダー養成講座を、令和 3 年度からは社会福祉学科の学生を対象に実施予定。

さらには、吹田市がダブルのバッジ、茨木市はクローバーのバッジを作られているが、DV タペストリーをしてきている推進団体が DV と虐待のバッジのデザインを考えてくれ、力を伸ばしてくれたのは嬉しい。バッジを市職員や人権擁護委員や民生委員など地域の人達が付けてくれ、虐待や DV を受けている人へのメッセージの発信になればいいと思う。

(委員) それが DV の抑止に繋がるのではないかと思います。できることをやっという姿勢が良い。

(委員長) 相談件数が増えている理由としてコロナは関係あるか？

(事務局) 相談件数の増については、令和元年度から女性相談員が 3 人体制となり相談日を増やしたことが、増加の要因と考えられ、今後は 600 件くらいで推移していくと思う。

緊急事態宣言の間は相談のキャンセルが入っていたが、6 月から若い方の相談が増えている傾向にある。

(委員長) コロナの問題は相談にも現れている。特に女性達にとって大きいと思うので、コロナ禍の状況に対応できる支援などの政策提言をしていけたらいいと思う。またよろしくお願ひしたい。

(委員) 教育、人材育成は大切だ。中学生の出前講座は今後も続けていってほしい。

案件（４）令和３年度の事業計画（案）

・資料２ 事業計画案に沿って説明

(事務局) 2019年12月に実施された大阪府の男女共同参画社会の府民意識調査を参考にさせていただいた。その中で、参加している・または参加してみたい地域活動の問いに対し、「仕事との両立が難しい」という理由もあるが、「参加したい活動がない」との回答が約30%だった。これは、本市にも言えることで、男性がセンターへ来所し、パートナーと一緒に参加できるような仕組みを作っていく必要があると考えている。

男女共同参画センター講座開催事業のカテゴリーのうち、男女共同参画は今まで時事問題を取扱っていたが、男性の家庭参画促進に関する内容を男女共同参画の中に取り込んで実施を検討。来年度は第4期男女共同参画計画・ウィズプランの策定を予定しており、人権女性政策課の職員がパブリックコメントの説明会として講座を設けられたらと考えている。

男性問題について、男性も女性もお互いに理解できるような講座を男性優先で実施したい。多様な性について、若い方を講師に招いてお話が聞けたらと思う。

「こころとからだ」のカテゴリーは通常のほっとサロンがメインだが、来年度は企業と連携協定を締結する予定があり、女性向けの健康講座を開催したい。ほっとサロンの1コマを3月の女性の健康週間に合わせてPRしたい。企業との連携事業としても一つ、子育て支援の中の親子で参加できる講座を来年度後半に実施する予定。子育て支援は乳幼児対象のものが多いが、来年度は学童期の保護者に向けて子育てのスキルの内容を組んでいきたい。

女性に対する暴力防止について、今年度パープル&オレンジリボンキャンペーン時にパープルデコレーションを実施し、情報室を飾り啓発を行ったが、来年度はタペストリー作成を続けてきた団体に加ってもらい、団体活動の幅を広げていきたい。そこで、保護者向けにDV防止の啓発をしていくため、講座を受講してもらい、今後、出前講座ができるよう保護者に向けアピールしていきたいと考えている。

活動交流支援事業について、来年度の手作りマルシェは一旦中止とし、ウィズせつつフェスタは、分散してするのか、今までどおり大規模にするのか、今年度のフェスタ実施後に団体に意見を聞き、考えていきたい。

女性問題について、中学校の出前講座、第5中学校からは来年度の依頼がきており、残り4校は今年度実施しているので、続けて実施したいと考えている。2年生になれば、デートDVの講座があるというふうに定着していけたらと思う。また、大学連携においては、大阪人間科学大学の新生向けに、4月オリエンテーション時のデートDV予防啓発講座を再開したい。また、ユースリーダー養成講座では前期で座学講義を実施し、後期でプログラムを作成というスケジュールでしていきたい。本市としては、翌年4月のオリエンテーション時に新生向けの予防啓発講座の講師を学生に担ってもらえないか大学に提案したい。

センターの講座では、大人にもデートDVを知ってもらうようにすることで、DV防止啓発に繋

がると思うので、来年度は保護者向けにも啓発できるようにしていきたい。

【質疑応答】

(委員) ウィズせつつカレッジの入学記念講演のテーマは？

(事務局) 具体的なテーマはまだ調整中だが、自己肯定感を持ってもらうというような内容を考えている。

(委員) 自尊感情を育てるといったような感じのものですね。

(委員長) チャレンジ企画は上限3企画とあるが、実績が2企画だったということか？

(事務局) 上限3企画のうち、2企画の応募があった。

(委員長) 3企画で予算とっているのにもったいない。

(事務局) この企画は、構成員が3人以上であれば申請可能だが、令和元年度も今回も推進団体からの申請になっており、一般の団体にはなかなか周知されていない。来年度の募集、広報活動を積極的にしていけないといけないと痛感している。

(委員長) 登録団体が高齢化していて、新しい団体がなかなか入ってこれないというのがあるのかもしれない。そのあたりを考えていかなければならない。何か良いアイデアがないか。

(事務局) 本市でも推進団体の高齢化が進んでいて活動が厳しくなっている団体もあり、今年度末に団体を解散されると聞いている。同様の団体へのメンバーの移行、つまり団体の合併による活動の継続を提案している。また、団体を掛持ちして入っていらっしゃるメンバーもあり、新しく団体を作っていただくというのはなかなか難しい状況。ウィズせつつカレッジの卒業生から活動していただける方を生み出したいが、カレッジ受講生が既に推進団体のメンバーかつ高齢者という状況にあるので、若手の参加者を増やし、お声掛けしていけないと思っている。

センターの利用は同じ方が多く、新しい方の開拓ができていないというのが実情。今年度初めて、リケジョ、小学生高学年の子どもを対象にしたが、1回ではなかなか定着しない。新しい講座をどんどん入れていけないといけいない。センターの存在を知ってもらい、若い世代をどうすれば取込めるかがセンターの課題。講座に来てもらって、そこから団体を作るとするのはなかなか難しいと思う。まずは講座でセンターに来てもらうようにしないといけいない。

(委員) チャレンジ企画の開催場所の提供とあるが、無料というのを強調すれば増えるのでは。

(委員) 近隣のマンションの管理室にお願いすれば掲示してくれるので、どんどんPRすれば良いのでは。

(委員) ホームページのQRコードの活用について、40代・50代の方はスマホの利用が主なのでスマホ対応できるようにすれば良い。ただ、講座申込方法は、氏名などを打ち込まないといけいないようになっている。フォームを作ってすぐに申込できるようにすれば良いのではないか。QRコードを目立つようにし、簡単にできるようにすれば良い。ホームページに誘導するのであれば、有効活用をぜひしてもらいたい。

(事務局) ホームページのスマホ対応は、現在進めているがもう少しお時間をいただきたい。

(委員) QRコードなど新しいものを入れられると、合理的に整理できると思うので、ぜひ活用していただけたらと思う。

(事務局) 5月22日(土)にチャレンジ企画のプレゼンテーション企画を実施予定。どなたか審査員をお願いしたい。

(望田委員より立候補あり) 望田委員、よろしくお願いいたします。

案件（５）その他

- ・次回運営委員会の開催について

令和３年７月頃の予定 後日日程調整する。

閉会